

**放送大学FM跡地を利用する臨時災害放送局の効果的な開設・運用に関する調査検討会
(第2回)議事概要**

1. 日時

令和4年11月1日(火)15:30~17:10

2. 場所

Web 会議(接続拠点 NHKテクノロジーズ)

3. 出席者

(1) 構成員(敬称略。座長・座長代理以下五十音順)

藤井座長(電気通信大学)、北郷座長代理(大正大学)

小田切構成員(所沢市)、川島構成員((株)エフエム東京)、木村構成員(国分寺市)、

小松構成員((一社)日本コミュニティ放送協会)、佐藤構成員(練馬区)、鈴木構成員(文京区)、
成清構成員(日本放送協会)、西村構成員(北区)、物江構成員(足立区)

(2) 総務省 関東総合通信局

新井局長、今井放送部長

(3) オブザーバ

西森課長補佐、塚田係長、宮地官(総務省 情報流通行政局 放送技術課)

岸田課長補佐、小河主査、太田官(総務省 情報流通行政局 地上放送課)

(4) 事務局

・坂本放送課長、奥野課長補佐、北村官、楠戸官(総務省 関東総合通信局 放送部放送課)

・岩田公共システム技術部長、小田専任部長、甲斐 SE((株)NHKテクノロジーズ)

4. 配付資料

資料 2-1 臨時災害放送局の受信可能範囲(電波伝搬シミュレーション)

資料 2-2 電波伝搬試験および室内試験

資料 2-3 タイムシェアのアンケート結果

資料 2-4 タイムシェア運用方法の論点整理

資料 2-5 公開実験について

資料 2-6 今後のスケジュール案

資料 2-7 臨時災害放送局用設備を用いた運用訓練に係る免許手続上の課題(構成員限り)

参考資料 2-1 第1回議事録(案)

参考資料 2-2 タイムシェアリング運用イメージ アンケート参考資料

参考資料 2-3 タイムシェアリング運用についてアンケート

5. 議事要旨

1 開会

・事務局より配付資料の確認があった。なお、参考資料 2-2 に記載誤りがあったため同資料を修正し後日配布する、との説明があった。

2 議題

(1) 電波伝搬試験及び FM 受信機の特性評価試験

・事務局より、「資料 2-1 臨時災害放送局の受信可能範囲(電波伝搬シミュレーション)」および「資料 2-2 電波伝搬試験および室内試験」について説明があり、以下の質疑応答があった。

【物江構成員(足立区)】

資料 2-1 の 7 ページに記載のシミュレーション結果を見ると足立区内全域には届かないように見えるが、どこまで届くか、の検討はこれからなのか。

資料 2-2 の 22 ページに混信検討が記載されているが、足立区だけの検討で良いのか。

資料 2-2 の 16 ページに調査予定地が記載されているが、足立区だけの調査で他自治体との混信検討ができるのか。例えば、足立区からの電波がどこまで届いているのか確認しなくてよいのか。

【事務局:(株)NHKテクノロジーズ】

法定電界値を用いたシミュレーション結果を示したが、実際の受信機を用いた電波伝搬調査で確認する。また、混信検討については 1 つの事例をシミュレーションで示したものである。

電波伝搬調査は、まず自治体単位で調査を実施したのち、複数自治体の電波を用いた調査も行う。

【藤井座長】

移動測定は、放送エリアの外側でも行うのか。隣接する自治体からの電力も参考にしているかどうか。

【事務局:(株)NHKテクノロジーズ】

まず、自治体内を中心に行いたい。隣接する自治体からの影響については“電波伝搬試験②”で行う。

【成清構成員】

資料 2-1 ではシミュレーションを用い、送信電力を変えて電波の広がりをイメージされているが、自治体ごとに(自治体の)広さも送信場所(自治体の中心か端か)で電波の伝わり方も違う。今後の展開として、(各自治体と同じ 100W というのではなく)自治体ごとにどのくらいの送信電力が適切なのか、という点について検討するのか。

【事務局:(株)NHKテクノロジーズ】

今回の、シミュレーションを踏まえ、最適な条件について絞り込んで検討したい。シミュレーションの条件については、各自治体の現用設備を用いており、現実的な条件で実施している。

【藤井座長】

シミュレーションと実測の結果を見て議論展開することになる。事務局として整理して構成員に展開して欲しい。

(2)タイムシェア運用の検討

・事務局より、「資料 2-3 タイムシェアのアンケート結果」及び「資料 2-4 タイムシェア運用方法の論点整理」について説明があり、まず、各自治体から参加された構成員から、順次、意見や質問を頂いたのち事務局から質問に対する応答があった。

【鈴木構成員(文京区)】

質問①:資料 2-4 の 1 ページの最下段に“少なくとも自治体間調整に委ねることは困難”とあるが、自治体の数が増えると各自治体による放送時間も流動的になるのか。また、今後どのようなスケジュールで素案が決まるのか。もう少し具体的に決まれば住民への周知も難しいと考える。

【西村構成員(北区)】

意見:タイムテーブルについては、事務局案の内容と同じ認識である。隣り合う自治体とは影響しあうので連携したい。

【佐藤構成員(練馬区)】

意見:(タイムスロットは)1回10分程度で午前1回、午後1回程度で良いと考えている。一度決めると(タイムテーブルの)変更は難しいのではないかと。

【物江構成員(足立区)】

意見:タイムシェアはやむを得ないと思う。利用したい自治体が増えると思うので、放送大学跡地以外にも利用可能な周波数を増やし、将来的に1自治体で1つの周波数が使用できるよう総務省にお願いしたい。

【木村構成員(国分寺市)】

質問②:アンケートではタイムスロット 10 分程度が多かった。タイムスロットを 30 分で検討しているが 15 分で検討しないのか。事前にタイムスロット・タイムスケジュールが分かっていたら、また事前に調整しておけば災害時に慌てなくても良いのではないかと。

【小田切構成員(所沢市)】

意見:周波数やタイムスケジュールを事前に割り当てておけば、事前に周知することができる。事前に時間割を付与してもらえるとありがたい。今後、開設したい自治体が増えると他の周波数の確保も必要ではないか。継続した調査と、利用方法の確立をお願いしたい。

【事務局:(株)NHKテクノロジーズ】

(質問①について)タイムテーブルに関しては、今回はシンプルなパターン(4局ないし6局)で検討した。

タイムシェアについて、技術的な検討を実施したのちタイムシェアの導入が図られると考える。利用したい自治体が多くなることについては課題と考えている。今回の検討でマニュアルを整備したい。

【北郷座長代理】

資料 2-4 の“アンケート結果に関する考察”にも記載されているが、災害時の情報は刻々と変化する。今回のタイムシェアは 10 分、20 分、30 分での定時ローテーションとなっているが、自治体ごとに状況には温度差があるのではないかと。たとえば、発災直後は緊急性がある情報提供についてはリアルタイムで行うことになるし、落ち着いてくると定時枠でもよい。定時放送の固定枠のローテーションを自治体の状況に合わせて組み替えるような臨機応変なタイムテーブルの考え方・方法論についても議論すべきではないか。

【事務局：関東総合通信局】

本調査検討会の報告書は来年3月に作成されるスケジュール感である。

本日の議論においては、

- ・定時ローテーション(タイムシェアでの切り替え)の更なる検討やより柔軟な対応が必要ではないか、
- ・住民に対し、使用する周波数や時間を事前に周知したい、
- ・拡大 FM 跡地の周波数を利用したい自治体が増えた場合どうするか、

という要望や意見がある点については承知した。これらの論点は、さらに議論を深めてマニュアル化していく必要があると思う。また、各自治体との連絡手段などについても併せて検討すべきであり、引き続きご意見を頂きたい。特にタイムシェアの運用については、本検討会でのとりまとめ後も実務的な情報交換が必要であり、定例的な連絡会を立ち上げてリニューアルしたいと考えている。

また、関東地域で周波数がひっ迫していることから、拡大 FM 跡地の周波数を臨時災害放送局(以下臨災局)で活用できるようにしているが、その他の周波数についても、地域によっては利用可能な周波数があるかもしれない。

【藤井座長】

タイムテーブルを作ると、例えば 30 分のタイムスロットで放送が 10 分であるとするとなりの時間はどうするのか。

【事務局：NHK テクノロジーズ】

(質問②について)タイムスロットを 30 分ではなく 15 分単位ではどうか、という意見があるが、うまく運用できるか、について整理したい。事前に臨災局の開設がわかっている場合での事前の検討という点については、今後の課題として、定例連絡会などの場での議論に繋げたい。空き時間の運用については、まずはタイムスロットを 30 分として検討し、然る後に運用での可能性を検討したい。

【事務局：関東総合通信局】

今回のタイムスロットについては大枠の素案であり、簡略化したパターンとして提示している。混乱した状況下で運用する場合、複雑に割り当てると全体が機能しないのではないかと危惧する。今回の貴重な意見を踏まえマニュアルの整備を進めていきたい。

【藤井座長】

なるべくシンプルな運用を考えることが重要ではないか。事務局として整理して欲しい。

(3) 公開試験

事務局より、「資料 2-5 公開実験の計画(案)」に基づき説明があった。質問や意見はなかった。

(4) その他

事務局より、「資料 2-6 今後のスケジュール」に基づき説明があった。質問や意見はなかった。

事務局より、「資料 2-7 臨時災害放送局用設備を用いた運用訓練に係る免許手続上の課題」に基づき説明があった。藤井座長より、運用訓練を行う場合は事前に関東総通局に問い合わせを欲しい、旨の発言があった。

3 閉会

- ・次回予定している公開試験について、詳細については別途案内する旨の説明があった。
- ・事務局より、関東総通局主催の“関東放送シンポジウム(第2回)会合”について案内があった。

以上

(差し替え資料の送付について)

・会合後、資料 2-2、資料 2-3 および参考資料 2-2 について修正があったため、差し替え資料を構成員へ送付

修正内容は、以下のとおり。

資料 2-2 : 9、10 ページに「受信機基本特性評価 速報結果」を追加。

資料 2-3 : 2 ページのアンケート期間を「9 月 28 日～10 月 12 日」に修正。

参考資料 2-2 : 表紙の資料番号の下に補足説明を記載及び中央に記載の日付を修正。